

秋のトキノキ観察会 報告

行った所：高島市朽木^{くつき} 生杉^{おいすぎ}

行った日：2016年10月15日（土） 晴れ

参加人数：大人17人、子ども15人 合計32人

ご指導下さったのは……「巨木と水源の郷をまもる会」会長の青木 繁 先生

お手伝いいただいたのは……河村さん、小松さん、河辺さん、川村さん

子どものエネルギーは眩しい。大人が見忘れてしまった…ものをも見、鈍感になってしまっている…ようなことにも鋭敏に反応し、驚き、歓び。子たちの一挙手一投足が、森の観察と同じぐらい刺激的だった。

爽やかに晴れた2016年10月15日、大津市内からの貸し切りバス組とマイカー組、それぞれが高島市中牧の山村都市交流館「山帰来^{さんきらい}」に集合。観察予定地は初め、弓坂越え方面であったが、今年はその辺りで連日熊が目撃されているとのことで、行く先を生杉の三国岳登山口付近に変更。生杉は京大の研究林^{あしう}芦生の森に近い地区である。

まずは元・朽木生き物ふれあいの里館長の青木繁先生から、森に入っていく際の注意、並びに約束ごとを聞く。森は楽しいが、思いがけない山の生き物たちとの遭遇がある。嬉しい出逢いもあるが、嬉しくない出逢いもある…。季節が季節（秋）だからなおさら。例えばマムシ、たとえばスズメバチ…。先生の話によればマムシより恐ろしいのはハチで、1年で40人ぐらいはハチで命を落としているという（マムシは10年に1人くらい）。が、生き物たちの習性を正しく理解して、冷静に対処すれば、必要以上に怖れることはない…。もちろん細心の注意はせねばならない。実際、この観察会でも、コース途中の2カ所でスズメバチ（一カ所は細い登山道のすぐ脇のトキノキのウロにコガタスズメバチ、もう一カ所は参加の男の子がシダ叢の中にキイロスズメバチ）の巣を発見。どちらも先生の適切なアドバイスで事故はなく、参加者はナマの勉強ができた。

★ ★ ★

さて、観察会出発だ。「山帰来」から車で生杉の三国岳登山口に移動。ちょうど車を降りた辺りに小さな水溜まり。子どもたちは目につくもの何でもが好奇心の対象。

「センセ、これ、カエルの卵…？」
「センセ、このケムシ、なにイ…」
「センセ、センセ」と、見つけたものを次々に青木先生に持って来てたずねる。青木先生も一つ一つ、モノを手に取り、答えていかれる。



トチノキが根を下へ下へ伸ばしている（水を求めて水場のある方へ根を伸ばしていくのだ）のが見える大

きく掘れこんだ谷筋で先生の「森」の説明を聞き、そこからブナ林まで急な斜面を登る。樹木の匂いに体が包まれるようで、それだけでも嬉しくなっているところに、時折、沸き立つように草の匂いがしてくる。草なのか土なのか、要は雑草を踏みしだいたときに沸き立つ匂いで、町なかにはない野生の？ 匂いだ。

道々、立ち止まっては先生の説明を聞き、あるいは木の皮を削いで、匂いをかいだり、触った感触を確かめたり、子どもたちはそれぞれ先生の一挙一動に目を輝かせる。ブナの成長度合いからこの森の歴史がわかることや、山の生き物の状況がわかることなど、あるいは樹木の成長を定点観測しておく話など、こういう地道な作業が森を守るのだ、ということも、実感として体で理解できる。子どもたちの心と脳の奥深くに「生命」の壮大さが刻まれていくだろうな、と思える空間と時間であった。



コース途中でブナやトチの実を探すが今年はあまり見あたらない。見つけても随分痩せた実ばかりだ。つまりは今年は動物たちにとっての山の恵みは不作。里に下りてくる懸念もある…ということである。

★ ★ ★

2時間近い森の観察のあと、再び「山归来」に帰り、昼食。「山归来」特製の鹿肉カレーと野菜サラダ。ジビエは個人的には苦手で、喰わず嫌いだっただが、全く違和感なく戴いた。下処理をきちんとしさえすればおいしくいただけると、実際、食べて解

った。鹿でも猪でも、仕留めてから処理に時間がかかると臭くなるし、銃を使う場合、弾が当たる部位を考えて狙わねば、また、一発で仕留めねば、肉に血が拡散して臭くなる。「山帰来」でいただいたカレーは臭みもなく柔らかくおいしかった。

昼食後は木工と草木染め。木工は鉛筆立て用に既にいろんな形に切ったトチノキを磨いたり、彩色したり…。草木染めはこの日はトチの葉っぱとカリヤス（ススキの仲間）を染料にして、媒染に明礬や鉄を使う。スカーフやハンカチ、トートバッグ等々、親子でおもいおもいに材料に向かっての作業を楽しんだ。

すべての予定を終えて 15:30 ごろ、自分で作った木工と草木染めの作品をおみやげに「山帰来」をあとにした。（森の思い出が子たちの中で大きく育っていきますように！）

山の稜線に縁取られた青い空はまさに宇宙。その下にぽっかりできた山あいの集落の、小さな空間に開けた小さな田圃では稲刈りが始まっていた。道や山の斜面ではススキの白い穂が陽光に光って、朽木の小宇宙は別天地。森に守られてこんなにも美しい地球がある！ とあらためて思う一日だった。



この度の「秋のトチノキ観察会」におきまして、平和堂財団さまに多大なご支援いただきました。篤く御礼申し上げます。ありがとうございました。（報告 西本椰枝）